

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271500397		
法人名	株式会社ヘルシーサービス		
事業所名	グループホームガーデンコート茂原 (ユニットⅡ)		
所在地	千葉県茂原市高師2144-11		
自己評価作成日	平成22年2月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成22年3月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>在宅生活の再現が出来たらと考えています。 毎月、なんらかの行事を企画し、ご家族にも積極的に参加して頂き、ご家族と共に季節を感じて頂きたい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「安心で笑顔があふれる生活を支援します」というスローガンのもと、職員が一丸となり日々支援している。今年度は、毎月行事の実施に取り組まれたことで、家族の参加率も高まり家族との交流も深まってきている。また、利用者の誕生日には、利用者のリクエストに対応するなど、個別ケアの充実にも取り組まれた。毎月の行事の実施や一人ひとりの要望に応じた誕生日の過ごし方の工夫など、利用者の生活の幅を広げる取り組みが充実している。近隣との関係も良好な関係が継続されており、利用者の支援及び地域との交流ともに充実している。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の運営理念、サービススローガンのほか、職員で考えた運営理念を基に実践しております。又、ホームの各フロア毎に理念を掲げてあります。	「安心で笑顔があふれる生活を支援します」というスローガンを掲げている。ホームのスローガンは、全職員で考え、ホーム内の掲示により職員に周知すると共に、日々の支援が職員の都合とならないよう、スローガンに振り返る機会を設けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	市内の美術館や商店へ出掛けて行き地域の方と交流する機会があります。近所の方からは、野菜やお花を頂く事があります。	地域とのつながりでは、美術館への外出や近所のスーパーへの買い物、近隣でのお祭りの際、お神輿を見に行くなど、積極的な外出機会を通じ、地域との交流が図れるよう取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ゴミゼロ運動や選挙等に参加する事で、認知症の人も社会参加出来る事の認識、理解を深めて頂けたらと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域での活動状況や利用者状況を中心に報告しており、質疑応答でアドバイスを頂いています。	運営推進会議は、年2回実施されている。会議では、参加者に運営状況の報告のほか、かかりつけ医による感染症に関する説明の実施など、会議内容に工夫を図り、有意義な会議になるよう努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居状況(空き状況)を報告させて頂き、入居のお問い合わせを頂いたり、研修会のお誘いや、感染症予防のアドバイスを頂いております。運営推進会議には毎回、市の担当者が参加して頂いています。	市との連携では、研修会のお誘いや感染症予防のアドバイスを頂くほか、「若年性認知症担当者」の配置に関し指導をもらい、ホーム内で担当者を配置するなど、互いに連携を取り、サービスの質の向上につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	今まで、昼間は玄関の鍵を開放していましたが、入居者の外出にスタッフが気付くのが遅れて探した時、近所の方に保護して頂いてもらっていた事から、身体拘束の弊害も考え、昼間も最小限の施錠する時間を設けました。	「身体拘束及び高齢者虐待防止研修」に管理者が参加をし、内部での伝達を通じ、身体拘束防止に向けた意識を高めている。また、日中利用者の安全性に配慮し玄関を施錠することもあるが、施錠による弊害に関し、職員に周知している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の種類などを話し合い、虐待は絶対にいけない事だと職員に意識付けています。		

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度は理解しています。 入居者様の中に制度を活用されている方がいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は時間を多くとって、ゆっくりと、わかりやすく、途中で質問を受けたりして説明をして理解を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月行われる行事にご家族にも参加を呼び掛け、来訪時にご意見などを伺う様努めています。	今年度、法人本部の主導により「介護保険サービス顧客満足度調査」を実施し、家族の意見を積極的に収集し、日々のサービスに反映できるよう取り組まれている。また、毎月実施する行事に家族の参加を呼び掛け、来訪時に意見等を収集している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	随時意見を求めており、夜勤時や朝の申し送りの時などに個々の意見を取り入れるように心掛けている。 スタッフ専用本部直通FAXを設けている。	形式的な職員面談とまでは至っていない状況であるが、夜勤時等に管理者から職員に声をかけ、現状の把握に努めるほか、職員専用の本部直通FAXがあり、職員がいつでも意見や提案を表出できる仕組みを整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は月1回、管理者から事業所内の報告や相談を受ける機会を設け、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回の管理職研修や年4回の事業所内研修の他、新卒者、二年目を対象に年6回の研修を予定しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人、他拠点の交流は設けていますが、地域内同業他社さんとの交流はまだまだ出来ておりませんので、今後の課題と考えています。		

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期には、十分に注意を払い、状況の変化を常に把握し、本人とのコミュニケーションを図り、理解するように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時は、ご本人様の様子を常に取り合い、すこしでも安心されるよう心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご自宅での生活に限りなく近づける様に、必要最小限のサービスでより自立した生活が送れるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備や掃除を手伝って頂いたり、誕生日のメニューを考えて頂いたりしています。又、言葉の意味や漢字などを教えていただける事もあります。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の報告や毎月の行事を企画し、ご家族が訪問しやすい環境作りをし、来訪時は、ご家族水入らずで過ごして頂いています。その際、家族が気が付いた事など話合います。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にもご協力頂き、外出や外泊、馴染みのお店に出掛けたりしています。又、親戚や旧友が尋ねてくる方もいます。	馴染みの人や場との関係が継続できるよう、家族にも協力を仰ぎ、外出や外泊、また、行きつけの美容院に継続して通えるよう支援を図り、これまでの関係の継続につなげている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が関わり合っている時は、そっと見守るケアを進め、孤立する入居者がいる時には、職員が声を掛け、孤立しないよう努めています。又、ソファやベンチを置いて自由に会話ができる様にしています。		

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	いつでも連絡を頂ける様に声掛けをしています。 又、町で出会ったときは挨拶をし、近況の話をしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の声に耳を傾け、自己決定が出来る様に支援をしています。 困難な場合は、皆と同じ事をしたいのでは？ と考え、なるべく一緒のプログラムを提案しています。	利用者の思いや意向については、日々の生活の中から聞き取り希望に沿った生活が送れるよう支援されている。職員側で勝手に無理だと決めつけず、入浴時間の希望などが出た際には、利用者の希望を優先している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職歴や家族構成、ご本人の性格などを聞きながら、出来る限り馴染みの物を用意して頂き、以前のサービス利用の経過等各担当者に聞いたりして把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の観察や見守りを重視し、変化に注意を払い現状の把握に努めています。 個人記録などに現状や変化を記載し、職員間の情報や意見の交換に役立てています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しています。又問題等が発生した時はその都度、本人、ご家族様などの意見を含めたプランの見直しをしています。	ケアプランは、担当者会議を通じ職員からの意見を取り入れ、本人家族の要望を踏まえ、短期・長期の目標が定められている。ケアプラン作成後には家族にも内容を説明し、同意を得ている。モニタリングは毎月実施し、利用者一人ひとりの状態を確実に把握している。	ケアプラン作成に当たり、職員からの意見を反映する仕組みがより強化されることに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録、変化などは個人記録に残すようにしています。 支援内容の変更が必要な時には、各記録を参考にしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美術館や回転寿司など個々のニーズに対して、個々に対応するだけでなく、皆さんにも提案し、希望者には一緒に参加して頂いています。		

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の理容店や交番、飲食店などへ協力を得ています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の意向を大切にし納得したうえで、利用して頂いております。	利用者が適切な医療を受けられるように、提携先医療機関による往診が隔週一度実施されている。往診日以外においても担当医とは常時連絡が取れる状態である。また、専門医の診断が必要な場合には、これまでのかかりつけ医を継続することも可能である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師さんに相談しアドバイスを頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、ソーシャルワーカーと情報交換をし、主治医には、退院後の気を付ける事や治療についてアドバイスを頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームとして出来る事、出来ない事を明確に説明し、ご本人ご家族が納得したケアの方向性を主治医を交えて話し合いスタッフが共有し取り組んでいます。	重度化した場合や終末期を向かえた場合においては、ご家族、主治医と密に連携を図り、援助計画に基づき情報を共有されている。職員間においても情報を共有し、ご家族・主治医・職員間においてはばらつきが生じないよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回、消防署にご協力をしていただき、普通救命講習をおこなっている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練(研修)を行っています。 非難訓練は早急な課題になっています。	災害時に備えた活動としては、避難経路の確認、通報訓練、消火器の使用法等、ホーム内での研修を実施している。避難訓練に関しては、定期的な実施とまでは言っていない状況であり今後の早急な取り組みが課題である。	今後においては、定期的な避難訓練の実施や消防署からの指示を仰ぎ、避難誘導體制が強化される事が望まれる。

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	相手のペースを尊重し敬いの気持ちを持って接するよう心掛けています。	利用者のプライバシーの確保を図るために、ホーム内において、プライバシー配慮に関する研修の実施のほか、ケアに対する「ケアの要点」についても研修に取り入れ、利用者のペースを尊重した支援が図れるよう取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外食(回転寿司など)に行く時は、好きな物を召し上がって頂いています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食はご本人のペースあわせ、起床した順に召し上がって頂いています。夜間も、ご自身のペースで入床して頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室でパーマをかけたリ、白髪染めをしたりしています。ご家族にもお願いをして衣類の入れ替えの協力をお願いしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食器の後片付けはもちろんの事、玉葱、ジャガイモの皮むき、もやしの根を取って頂いたりしています。お誕生日は、リクエスト献立にしています。	食事の準備では、利用者も参加をし、ジャガイモの皮むきやもやしの根を取る作業等、主体的に取り組まれている。また、利用者の誕生日には、リクエストメニューの実施など、工夫を図り対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作る献立でカロリー計算されています。主食である御飯と水分摂取量は軽量して、1日の摂取量を記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろん、入床前の義歯洗浄や口腔ケアウエットティナーなどを利用したケアを実践しています。		

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意、便意のない方は時間を見ながらトイレ誘導を実施し、記録を取り、排泄パターンの確認に役立っています。	利用者一人ひとりの排泄パターンに関しては、「排泄表」で確認している。日々の支援では、利用者一人ひとりの力や習慣を活かし、トイレでの排泄を基本としている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に心掛け、主治医と相談しながら、取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	目安になる入浴予定はありますが、ご本人の希望を確認して、体調が良い時に入浴して頂いています。	入浴については、午前中の時間を用い、週に2回入浴できるよう支援されている。入浴中は職員も介助に入り、利用者とのコミュニケーションを深めると共に、安全に入浴できるよう支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日頃の睡眠状態を観察し、日中の過ごし方、午睡の導入を検討しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診時に薬剤師さんに立ち会って頂き、服薬内容に変更があった時に説明を頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や行事を中心に季節ごとの楽しみを見つけて頂いたり、けんだま、習字など得意な物を皆に披露して頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	白子町へ玉葱掘りに、千葉市へ苺狩りに出掛けたりして季節を感じて頂いています。行事に家族参加を呼びかけ、ご協力をお願いしています。	玉ねぎ堀やイモ掘りなど、様々な外出行事を計画し、戸外での活動に取り組まれている。また、近隣の散歩やショッピングモールでの買い物等、積極的に外出の機会を設け、利用者の生活の幅を広げている。	

グループホームガーデンコート茂原 ユニットⅡ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買物の時、個々のお小遣いの中から自分の欲しい物を選び、購入されています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の利用は希望時に対応しています。 年賀状などお手紙が来た時には、返事を書く様に勧めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った飾りつけを行い、食堂にはソファやTVを設置しくつろぎやすい空間作りをしています。	利用者が集まるリビングには、ソファを設置するなどくつろげる空間を設けるほか、利用者が作成したぬり絵等を掲示し温かみのある雰囲気となっている。また、トイレや浴室も清潔が保たれており、転倒の危険となるようなものも放置せず、安全に且つ快適に生活できるよう努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや庭のベンチを活用しています。 玄関の椅子も入居者様に好評です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、今まで使い慣れた物や馴染みの物を持ち込んで頂ける様にご協力をお願いしています。	居室には今まで使い慣れたものを持ち込んで頂く事で、利用者が居室内においても居心地良く生活できるよう取り組まれている。居室は広いスペースであるが、広いスペースを有効的に活用されているほか、家具類はビス止めし、地震等による転倒を防止し、安全に生活できる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレが近い人は、トイレに近い席にする等、共同生活において、なるべく他者に気兼ねをしなくて良い環境作りに努めています。		